

令和3年（2021年）9月2日

第5回都市マネジメント懇談会 会 議 要 旨

事 務 局

都市整備局都市計画課

第5回都市マネジメント懇談会 会議要旨

1 開催日時

令和3年（2021年）9月2日 9時30分

2 開催場所

広島市役所 14階第7会議室

3 出席委員

渡邊委員（座長）、田中委員※、神田委員※、フンク・カロリン委員※

木原委員※

※ オンライン参加

4 傍聴人

なし

5 閉会

11時30分

【配付資料説明】

これまでの都市マネジメント懇談会における議論内容、意見交換内容、参考データについて説明

【議論内容】

- ・第1回～第4回の都市マネジメント懇談会の内容の整理
- ・まとめ

【意見交換（広島市の現状に関するSWOT分析について）】

（神田委員）

- ・ 近年、広島には幹線道路系の整備の話が結構あり、国道2号の東広島バイパス、安芸バイパス、西広島バイパス等、近隣都市間の道路ネットワークが大きく変わろうとしており、広島を中心とした都市圏の連携強化のチャンスになる。

（渡邊座長）

- ・ 200万人都市圏構想などの具現化というのは、交通ネットワークが確立すると当然進むと思うが、人口が広島市に集中してしまう。ただ、広島市の中でも安佐北区のように条件が良くないところは、人口が減ってしまう。
- ・ 交通ネットワークが形成されることは、チャンスでもあり、ピンチでもある。

（フंक委員）

- ・ 自然環境を生かした温暖化対策として、広島の特徴を入れた方が良くと思う。広島市は市内に複数の川が流れており、川に沿って風が入るところや川に沿って緑地があるところは、広島市の特徴であり、その緑地を海までつなげるなど、川を中心とした自然環境を生かした温暖化対策などを具体化した方が良い。

（渡邊座長）

- ・ 広島には、平和記念都市建設法に基づき整備された施設の中に河岸緑地がある。温暖化対策の重要な資源として、河岸緑地の重要性を位置付け、先人がつくったストックを、これからどのように活用・展開していくかが重要な視点である。

（フंक委員）

- ・ 特別な法律に基づいて、ある程度都心に自然空間があるというのは、広島の特徴であり、強みである。

（田中委員）

- ・ 温暖化適応という観点からは、風をうまく生かすことができれば良い。

温暖化対策等として緑を増やしたり、まちを涼しくすることが都市の魅力づくりにつながり、観光にもつながるため、複合的な効果を何かメッセージとして伝えられると良い。

(渡邊座長)

- ・ 広島は、水の都ひろしまとして、先人たちのストックや親水空間としての河川空間を活用することは、環境配慮という観点も含め、水の都ひろしまの展開は良い。

(フंक委員)

- ・ 最近の豪雨のことを考えると、河川空間を広げることは、これからの防災を考えても必要である。川があふれないように空間を与え、同時に緑地を増やすことで、都市空間を魅力的にするということにつながる。建物がぎっしり建っているところを整理していき、河川の空間を広げ、緑化することで観光の方も魅力が増し、効果的である。

(渡邊座長)

- ・ 水上交通も期待されているが、十分に力を発揮しきれていない。観光的な側面で親水性のようなものが出てくれば良い。

(神田委員)

- ・ 人口が大都市圏に集中することが全国的に進んでおり、広島だけではなく全国的に将来労働力不足になると予想されている。大都市に吸収されてしまう恐れがあるということを、外部環境の脅威として認識しておくべきである。
- ・ 再開発などによりお店が入ると、既存の地域らしいお店が大体消えてしまい、チェーン店ばかりになる。まちの個性を保つため、アイデンティティをはっきりさせなければならないと思う。

(渡邊座長)

- ・ 広島はアナログ的な良さとクールジャパン的な良さがあり、それをうまくミックスさせ、クールな中にアナログ的なものがあるのも良いのではないかと思う。

(木原委員)

- ・ 自然や環境に配慮した結果、都市空間が豊かになるデザインや仕組みを組み込んだコミュニティづくりを行い、コミュニティの価値を高めていく必要がある。まちづくりにおいて、いろいろな考え・思想レベルで浸透していく都市デザインを実験的に取り組んでいく必要があると思う。

(田中委員)

- ・ 土砂災害特別警戒区域とは、環境的にみると多くは谷である。谷は冷気流が流れてくる、ドイツでいう風の道でもある。防災的観点からそのようなエリアの建物立地を規制し緑地とすることは、再び風の道として機能する場を増やすことにつながる。環境的にも、防災的にも理にかなっており、そのような土地利用ができればと思う。

(渡邊座長)

- ・ 風の道のために空間を確保して、自然的な空間を残し、風の通り道には建物の開発ができないような、環境を前面に打ち出した計画づくりや土地利用も必要だと思う。

(フंक委員)

- ・ これからの都市計画において、残すだけでなく、戻すことも必要であると思う。人口減少などで空き家が増えている中で、空き家を壊す、自然に戻す優先区域を川沿いや風の通り道につくることで、防災と環境につながっていく。「残す」と「戻す」を併せたようなルールづくりが必要であると思う。

(渡邊座長)

- ・ これまでの都市計画は、つくるばかりであったが、これからは戻す、たむ、縮めるなど、これまでとは逆向きとなる。これらを取り入れることで災害対策や環境保全につながると思う。価値観をどこにおくか、リスクマネジメントを行い、環境を守る、自然を守るなど、どこに価値を見出すかで大きく変わる気がする。

(フंक委員)

- ・ 広島市民は今、防災のために自然空間を増やす必要があると感じていると思う。3年前に50年に一度といわれた災害が、3年後また起きている。

今変える、これから変えるというのは、ある意味で行政は正しく判断しており、タイミングとしては変化ができる時期であると思う。

(渡邊座長)

- ・ 砂防ダムをつくって土石流を抑えることは必要であるが、そうではないところに人が住んで、風の通り道などは自然活用することも必要だと思う。

(木原委員)

- ・ 今、環境について考えていく最適な機会であるが、交通についても同じだと思う。交通は今後の変化が読めない。読めないのであれば、環境を重視し、公共交通と融合した新しい方針を広島から打ち出してみても良いと思う

(渡邊座長)

- ・ 今回の懇談会でもM a a Sが話題に上がっていた。M a a Sを活用し、時間や費用を計算するだけでなく、環境への優しさなども計算でき、時間ベストや費用ベストのように、環境ベストなどとして利用者に選んでもらえるシステムづくりも必要だと思う。

(木原委員)

- ・ トランジットモールでの交通への対応だけでなく、都市空間や都市デザインとして、環境にも配慮したトランジットパークが最適であると考えている。

(渡邊座長)

- ・ 1 0 0 m道路はまさにそれに当たると思う。道路空間としてつくったが、これからは公園として、公園の中に道路があるというような、そんな考え方もできると思う。

(神田委員)

- ・ 環境はとても重要なことで、今後も考えていくべき問題である。環境と活動のバランスを考え、環境と活動を両立・共生することで、我々の環境に対する見え方や考え方は変わるかもしれない。

(渡邊座長)

- ・ これまで戦災復興という中でつくられてきたものを、これからはどういう方向で使うかと考えたときの基本的な考え方として、環境ということがあると思う。広島は環境に配慮した路面電車も走っており、うまく環境と

いうものにリードしていけると思う。

(神田委員)

- ・ 環境ということが足かせにならないことが重要だと思う。道徳や義務ではなく、価値を高める一つの方法であり、それを体現化、見える化のような形としていかなければならないと思う。

(田中委員)

- ・ I C T技術の発展で、いろいろなデータ、まちの中の環境データや人の行動データを集めることができれば、最適な場所に、最適なタイミングで一番良さそうな対策を打つことができると思う。

(渡邊座長)

- ・ I C T技術の活用は、これからはとても重要で、いろんな意味でデータがストックされて、データを取れたり、共有できる都市を目指すことは重要である。広島はものづくりが強く、多様なものづくりのメーカーがそろっているが、消費型の都市として、まだまだ伸びしろはあると思う。そのベースとなるものがI C Tではないかと思う。

【まとめ（広島市の現状に関するSWOT分析について）】

(渡邊座長)

- ・ 都市圏の広域化は、近隣都市とのアクセスが良くなるため、広域計画は重要である。
- ・ 自然を享受したコミュニティ、水の都ひろしまなどで河川空間の活用かつ防災面も含めることが重要である。
- ・ 広島らしい魅力づくり、都市の思想・哲学をしっかりと確立していくべきである。恒久平和を目指す都市として確固たる信念を持った都市ではあるが、そこにどのように加えていくかがこれからのポイントである。
- ・ 環境について、これからどのように考えていくかはとても重要であり、風の道などの環境に対する配慮や、これまでつくられてきたストックを環境面にどのように生かしていくか、考えていくかがとても重要である。

【意見交換（都市マネジメント懇談会 論点整理表について）】

（フंक委員）

- ・ 一気に建物が耐用年数を迎えるが、ゼロ・エネルギー建築やプラスエネルギー建築などの新しい基準を打ち出しておかないと、これまでのような安いという基準を重視して建替えても、最低限の防災環境基準を満たしたとしても、将来性のない建物になってしまう。

（渡邊座長）

- ・ 土地や建物が細分化され、地権者がどんどん増えてくる。
- ・ 大きくした方が効率は良く、環境にも優しくなると思う。土地を一つにできないのであれば、建物を合築し環境性能を良くする等、工夫が必要であると思う。どこかのタイミングでまとめ直すことが必要であり、経済合理的にも環境性能的にもまとめていった方が地球にやさしいと思う。

（フंक委員）

- ・ 観光の視点も取り入れ、広島の特徴を出すようなものや、歩きやすさなども考えるべきである。日陰をつくる建物、歩行者に少し陰を提供する建物など、景観的な側面も含めるとより良いと思う。

（渡邊座長）

- ・ 歩きやすい空間が形成されている都市はとても魅力的であり、活力も出てくる。環境面においても良く、全体的に良い方向に向かうと思う。

（田中委員）

- ・ 日陰は大切である。調査をしたところ、夏は多くの人が日陰を選択して歩かれていることが分かった。日陰のみを歩いて目的地へ行けるようになればいい。

（渡邊座長）

- ・ 広島は先人がうまく平和記念公園などのストックを残してくれており、平和のストックを環境へつなげていくべきである。平和記念都市建設法でつくられてきた平和記念公園や平和大通りなどのストックを、環境やICTの視点から一層価値のあるものに見出し使っていく、今はその転換期であると思う。

(神田委員)

- ・ まちのある程度集積させることも必要であるが、放っておくと機能がじわじわ低下していく。
- ・ 都市機能の集積をコロナ禍で見直していく必要がある。

(渡邊座長)

- ・ 最近コワーキングスペースが増えてきた。様々な働き方が生まれる中、コワーキングスペースのような場所が必要だと思う。広島ならではの非常に恵まれた環境の中で仕事ができる、そのようなオフィスづくりも必要であると思う。

(神田委員)

- ・ 紙屋町から宇品に向かう大通りから1ブロック東の、ひと・まちプラザとかが面した南北方向の縦筋周辺にコワーキングスペースを集めて、若者が興味のあるようなビジネスを集積させ、集積させた軸と人が集まる拠点がぽつぽつあるところに、スパークさせるようなものがあっても良いと思う。

(渡邊座長)

- ・ 道路沿道はうまく建替わるが、どうしても中の部分は取り残されたり、建替わらない傾向にある。
- ・ 中の部分に若者にとってビジネスのチャレンジになる場や、コワーキングスペースでみんなで議論ができるような場とか、そのような使い方もあると思う。

(木原委員)

- ・ モデルケースとして、路面電車があり、ビジネスエリアでもある相生通りの八丁堀・紙屋町付近に、環境に配慮した公共空間、道路空間であるトランジットパークをつくるべきである。民間が打ち出し、民間主導で行う。道路空間については官民連携が必要であると思うが、民間主導でチャレンジすべきである。

(渡邊座長)

- ・ 戦後の復興はこれまでどちらかというと行政が主導で行ってきたが、これから50年、100年先の次なる復興は、民主導であると思う。これま

でつくってきたインフラをうまく活用していく、手を加えていく、改善していく、再生していく。すべてを公共事業で行うことは難しく、民間と連携しながら、官民連携で新しい広島をつくっていくことが必要である。

(木原委員)

- ・ 今の行政主導の価値観・思想を民間主導へと定着させたい。市民の都市環境デザインの思想の定着は拠点地区から実験的に行い、都心部へ広がっていくことが理想的かもしれないと考える。

(フंक委員)

- ・ 観光の方から行政にお金が入らない仕組みが多い。宿泊税を導入して得たお金を観光宣伝に使用するのではなく、観光客も利用する空間・整備や公園などの景観などに使用する仕組みを考えることが必要だと思う。

(渡邊座長)

- ・ 宿泊税など自分たちのまち独自の税制をつくって、それを財源にまちづくりをすることも良いと思う。

(神田委員)

- ・ 都市インフラは日々機能の陳腐化が進んでいる。
- ・ 機能の陳腐化に対して、対策をきっちり打つことが重要であることを認識しないといけない。

(渡邊座長)

- ・ 老朽化だけでなく、陳腐化にどう対応していくかは、とても大事であると思う。

(田中委員)

- ・ 郊外住宅団地でもクオリティの高い団地は更新が進んでいて、新たに人が入ってきているところもある。どのようにクオリティを高め、どのようなクオリティをつくるかは、都心部の話とは別に大切なことだと思う。
- ・ 広島は市街化区域内に農地が多く、農地と郊外居住を組み合わせる仕組みを考える必要があると思う。

(渡邊座長)

- ・ 広島は一大消費地であり、取れたての野菜が食べられるなど、近郊農業をうまく取り入れることができれば良いと思う。もっと多様性を活用でき

れば良いと思う。

- ・ 東京などは鉄道沿線でまちづくりをされているところもあり、民鉄が個性的なまちづくりをしているが、広島も同様なことができないか。

(神田委員)

- ・ 開発は行うが、そこからのまちづくりに対して責任を持っていないことが、広島の交通事業者が行うまちづくりの欠点である。仕組みの問題として、東急であれば東急沿線の色があり、M a a S の取組も各事業者が沿線の価値を高めるためにやっているが、広島ではそれができていない。

(渡邊座長)

- ・ 交通事業者に頑張ってもらえるところもあるが、そこに住んでいる方々がどのように考えるか、そこを盛り上げていくことも大切だと思う。

(木原委員)

- ・ 横川は独自で盛り上げていこうとしていますが、鉄道の走り方や路面電車の駅の距離感などにより、また全体的にこれまでの広島都心部での都市空間のつくり方は均一的であり、駅ごとの違いを感じ取れないことが多い。ポテンシャルはあると思うので、駅周辺の歴史から紐解き、引き出していければ良いと思う。

(渡邊座長)

- ・ 個性化にもっと取り組んでいかないと、手遅れになる団地やまちなかでもシャッター商店街のようなところが出てくる。
- ・ 行政や鉄道会社が主導ではあるが、そこに住んでいる人、そこで働いている人が、自分たちの問題として取り組んでいくことが必要である。カープ愛のように自分たちの地元・地場に愛着を持って、まちづくりに向けられると、面白いまちになると思う。

(フंक委員)

- ・ 東京や大阪の沿線は民鉄であるが、資本が違う。鉄道会社が最初からコンセプトを持っているので、比較できないと思う。
- ・ 広島の特徴は立地だと思う。海と山が近いところや特徴のあるところから始めると良いと思う。

(渡邊座長)

- ・ 東京や大阪とは違うまちの個性化に取り組む必要がある。

(神田委員)

- ・ 鉄道かバスかの違いは大きいと思う。バスは撤退が安易であり、鉄道は撤退が難しい。大都市であると民間業者がまちづくりに深く入り込んでくるインセンティブが働いている。広島はバス主体であり、鉄道も公共が主体的であったため、難しいと思うが、仕組みそのものを変えていく必要があると思う。

【まとめ（都市マネジメント懇談会 論点整理表について）】

(渡邊座長)

- ・ 日陰を通して目的地まで行けるような、歩きやすいまちづくりが大切であり、トランジットパークのモデルとして相生通りを検討する。
- ・ コワーキングスペースなどをつくり、都心の魅力づくりを行い、ライフスタイルの変化に対応する。
- ・ 郊外住宅のあり方は、今後大きな課題となり、郊外部のライフスタイルも考えていくべきである。
- ・ 建物の老朽化だけでなく、陳腐化も大きなポイントと捉え、建替え、再生を考えていく必要がある。
- ・ 行政が厳しい財政状況に陥ったとき、官民連携で民の頑張り・力は必要である。